

①人権学習ファシリテーター入門講座

②人権教育地方別研修会

研 座 演 沙 資 映 他 体 ワ

和歌山県教育委員会
和歌山県教育庁生涯学習局生涯学習課
TEL 073-441-3719

実施年月日 実績等	①平成16年7月～11月（県内の2つの会場で各10回） ②平成16年8月～平成17年2月（県内8地方の会場） 参加人数：①のべ60人 ②のべ1,242人
主催（共催）	①主催：和歌山県教育委員会 ②主催：和歌山県教育委員会 共催：和歌山市教育委員会
開催場所	①橋本市会場（紀見北地区公民館、中央公民館） 田辺市会場（新庄公民館、田辺市民総合センター） ②和歌山市（プラザホープ） 海草地方（下津町民交流センター） 那賀地方（岩出町総合福祉保健センター） 伊都地方（伊都総合庁舎） 有田地方（きびドーム） 日高地方（美浜町地域福祉センター） 西牟婁地方（西牟婁総合庁舎） 東牟婁地方（那智勝浦町体育文化会館）
対 象	① 一般県民、市町村職員、県職員、教職員など ② PTA関係者、社会教育関係者など
人 権 課 題	① 人権全般、女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、外国人など ② 人権全般、子ども、障害者、同和問題など

事業の目的

①人権学習ファシリテーター入門講座

市町村や地域等で人権教育を推進するうえで有効な参加体験型学習を広めるためのファシリテーターを養成する。

②人権教育地方別研修会

同和問題や女性、子ども、高齢者、障害者等にかかわる人権問題について、地方ごとにそれぞれの実情を踏まえ、地方別にPTA、社会教育関係者を対象に研修会を開催し、課題解決に向けた取り組みを推進する。

ともに、様々な個別の人権課題について学ぶ。

○8～10回

受講者自らがグループでワークショップのプログラムを作成し、発表し合う。

②人権教育地方別研修会

会場ごとに、講演・啓発映画（1会場のみワークショップ）の形態で開催した。



基礎を学ぶ

事業概要

①人権学習ファシリテーター入門講座

2会場ともに、10回の連続講座を開催した。内容は次のとおりである。

○1～7回

出会いのための人間関係づくりのトレーニングをはじめとした、ファシリテーターとしての基礎的な技術を取得すると

和歌山市：講演「犯罪・非行と人権」、映画「犯罪被害者の人権を守るために」
海草地方：講演「現代の子どもたちと向き合うために」、映画「うちの子にだって」
那賀地方：講演「現代の子どもと青少年に向き合うために」、実践報告「地域ふれあいルームの活動をとおして」
伊都地方：講演「介助犬を学ぼう」、映画「夢、空高く」
有田地方：講演「今、子どもたちに伝えたいこと」、ワークショップ
日高地方：講演「現代の子どもたちと向き合うために」、映画「うちの子にだって」
西牟婁地方：講演「宗教と人権」、ワークショップ
東牟婁地方：講演「子どもの虐待防止に向けて」、映画「小さな叫び」

連携状況

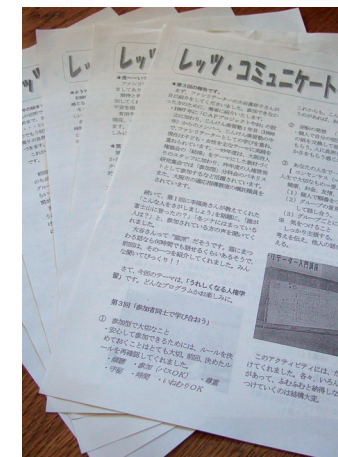
②人権教育地方別研修会

和歌山市会場では、企画・運営を和歌山市教育委員会が担当。企画の段階で県教育委員会と協議を行った。

特色・工夫した点

①人権学習ファシリテーター入門講座

○10回の講座は、監修を依頼したメインの講師のほか、人権問題の各分野で活躍する多くのファシリテーターを招いて構成した。
○講座後には、毎回、「レッツ・コミュニケーション」と題し、学習を振り返るプリントを配布した。そのなかで、各回の講座のポイントをまとめるとともに、講座終了後のアンケートに寄せられた参加者の感想や意見を紹介した。これが好評で「学習の復習になって助かる」「自分の声が反映されているのが嬉しい」といった声が挙がった。
○修了者の実践の場として、ワークショップをはじめ、県の研修会などの事業への協力を依頼した。



通信「レッツ・コミュニケーション」

②人権教育地方別研修会

○1会場では、「人権学習ファシリテーター入門講座」の修了者によるワークショップをプログラムに組み込んで実施した。

実施結果

参加者の反応・事業の反響等

①人権学習ファシリテーター入門講座

○当初は、「10回の講座に続けて出席できるか不安」という声も聞かれたが、回が進むにつれ、「次が楽しみ」という声次第に多くなっていった。毎回、講座終了後のふりかえ

りカードにも、「楽しく学んでいる」という感想が寄せられた。

○後半には、受講者自らが望んでファシリテイトする計画を立て、講師の助言のもと、県や教育委員会主催のイベント・研修会でワークショップを行った。
○20歳代から50歳代と幅広い世代が受講した。
○修了者のなかには、講座をとおして人権問題の奥深さに気づき、「もっと学びを深めたい」と話す人もいた。

②人権教育地方別研修会

○相次いで子どもの事件が起こる状況を踏まえて、「子どもの人権」に視点を当てた講演を組み込んだり、介助犬のデモンストレーションやワークショップを実施したりするなど研修内容を工夫したことにより、参加者が興味をもって主体的に研修に臨めた。

反省点・今後の課題

①人権学習ファシリテーター入門講座

○修了者は、それぞれの地域でグループを立ち上げる等、活動しつつあるが、地域の地区別懇談会や研修会等では、参加体験型学習が取り入れられる機会は少ない状況にある。今後、住民主導型の体制を築いていくためにも、これらの修了者を核にして広がりをもたせていきたい。
○修了者は、ファシリテーターとしての基礎的な知識や技術は身につけることができた。今後は、幅広い人権課題のプログラムを独力で企画し、運営することができるよう、さらなるスキルアップを目指すための講座を企画し、支援していきたい。

②人権教育地方別研修会

○平成16年度は、8地方で開催してきたが、市町村合併が進む中で、今後、開催地について検討していく必要がある。
○近隣の市町村の参加者が一同に集うことや、PTAを中心とした参加者が毎年参加するということを含め、今後の研修会の内容の充実を図りたい。



プログラムを作成中